



GIGAスクール構想の実現に向けて

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

次の児童と教師の会話は、ある小学校の宿泊学習前の様子です。こんな会話が日常的な学級活動の中で聞かれるようになると、学校において「GIGAスクール構想が実現した」と言えるのだと思います。



教師

※この小学校は自由なクラウド活用が進んでおり、Chromebookを活用しています。

教師：班のメンバー表、だれかスプレッドシートに入力して！

児童：あ、やっときましたよ。

教師：へ？いつ？

児童：昨日のうちに。家で。

教師：それ、大人の世界じゃ残業って言うんだよ（笑）でもありがとう。使いそうな資料、今度アップしておくからね！

児童：あ、宿泊施設のホームページはもうクラスルームにリンク貼っとききました。A君が、資料のPDFもさっきアップしてましたよ。

教師：さっき黒板に書いてた内容、誰か記録写真撮ってる？

児童：もうGoogleドライブに入ってますよ！誰かが入れたんだと思います。

教師：ありがとう。



児童

さて、「GIGAスクール構想」という言葉を初めてお聞きになった保護者、地域の方もいらっしゃると思います。これは、2019年12月に文部科学省から発表されたプロジェクトのことです。日本全国の小・中学校、義務教育学校に高速大容量の通信ネットワークを整備（地域による差がある）し、また、児童生徒一人一人にタブレット型端末を配備し、多様な子どもたちに最適化された創造性を育む教育を実現する構想です。昨年度から本格実施され、「GIGAスクール元年」とも呼ばれていました。

「GIGA」とは、「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字であり、意味は「全ての児童生徒のための世界につながる革新的な扉」となります。ここでいう世界とは、子どもたちがこれから飛び出して行くであろう世界であり、物理的に言えば外国、観念的に言えば不確実、不確定な未知の世界とも言えます。現代でさえ、そのような世界になってきていて、子どもたちが大人として生きていく時代は、予測不能という状況が更に加速していると予想することができます。そんな世界に、子どもたちは手ぶらで、無防備に飛び出していけるのでしょうか。

本校として難しい課題も多いと考えますが、「学校として『やる』のか『やらない』のか、チャレンジングに『やる』学校の方が間違いなくおもしろい」という思いを全ての教職員が共有し、本校のGIGAスクール構想を実現していきたいと考えています。